

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」白金高輪校		
○保護者評価実施期間	2024年11月2日		~ 2024年12月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2024年12月2日		~ 2024年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもと保護者のニーズや課題に沿った、児童発達支援計画（個別支援計画）を作成していること。	体験時のこどもの様子や、保護者からの聞き取りなどを通してアセスメントを取った上で、個別支援計画を作成しています。	こどもの自己肯定感が高まり、自信を持ってできることが少しでも増えていくにはどうすればよいのかを、保護者と一緒に考えていきます。
2	支援の振り返りの時間で、保護者と本児についての現状などを情報共有していること。	支援後の15分の振り返りの時間で、支援内容や最近のこどもの様子などを共有するだけでなく、保護者のお悩みやお考えを傾聴するようにしています。	保護者の要望があれば、こどもが通う園と関係機関連携をしています。
3	こどもが安心感を持って楽しく通所できていること。	こどもが「きらり」で楽しく過ごすことで、また次も「きらり」へ行きたいと、こどもに思ってもらえるような支援を心掛けています。	「誰にだって輝ける舞台がある」というのが弊社の基本理念です。この理念に基づき、肯定的に認めていくことを大切にしています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもの特性等に応じた専門性のある支援について、まだ至らない点があること。	「言い方が強く感情的で、親子で苦手な指導員がいる」というご意見をいただきました。このような不快な思いをさせてしまったことに反省しています。	こどもに対しても保護者に対しても、高圧的な言い方や感情的な言い方にならないよう注意します。また否定な声掛けをせずに、できていることを肯定的に認めるようにしていきます。
2	集団活動を適宜組み合わせた支援ができていないこと。	1時間の個別療育を主としていることと、児童発達支援をご利用するこどもが少ないため、小集団療育を行うことができていません。	児童発達支援でのご利用をもっと周知・宣伝することで、利用するこどもの数が増えるようにしていきます。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会などを通して、保護者同士・きょうだい同士の交流の機会が設けられていないこと。	保護者会のニーズがある方とそうでない方がいるため、なかなか保護者会を開催できていない現状があります。	保護者への情報提供の場として、無理なくできるところから保護者会の開催ができればと考えています。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」白金高輪校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 7

回収数 6

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	2	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6	0	0	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5	0	0	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5	1	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4	2	0	0	言い方が強く感情的で、親子で苦手な指導員がいる。	不快な思いをさせ申し訳ありません。今後このようなことが無いように努めます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5	0	0	1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6	0	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4	1	0	1		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2	1	2	1		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5	1	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5	1	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	1	1	1		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	5	1	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	1	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4	2	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	0	2	3		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5	0	1	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	0	0	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	0	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	0	0	2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4	0	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5	0	0	1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5	1	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	5	1	0	0		

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	こどもサポート教室「きらり」白金高輪校	公表日	2025年 2月 15日
------	---------------------	-----	--------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーティションを利用して適切な空間を設け、簡単な運動もできるようにしています。	利用児童の状況に合わせた個別療育が実施できるように、環境設定をしていきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切な職員配置を心掛け、担当制ではないのでその都度柔軟に指導員を配置できるようにしています。	指導員の病欠などがあると、適切な職員配置が難しくなるので、人員を増やせればよいと思っています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		1階で段差が無いので、ベビーカーでも通所できます。車椅子でも対応可能です。	限られたスペースで物の置き場所が制限されるため、常に整理整頓を心掛ける必要があります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日々の清掃でアルコール除菌をしており、換気扇で換気もしています。	今後もアルコール除菌を継続して、清潔な環境を維持していきたいと思っています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別療育を主としているので、利用児童は個別の場所を使用することができます。	使用する机と椅子に限りがあるため、都合や時間帯を見ながら、個別の場所を設定する必要があります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々のミーティングを大切にしています。定期的に業績評価シートを用いて、目標設定と振り返りをしています。	業績評価シートの通りに実行することが難しい時もあるので、業務改善のための共通認識を持つために日々精進していきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表の結果をもとに会議を開き、保護者の意向を把握しました。	今後も保護者の意向を踏まえて、業務改善に努めていきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		1on1などで職員の意見を聞く機会を設けています。	すぐに改善に向かう時も、改善まで時間がかかる時もありますが、よい仕事につながるように努力していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○	○	第三者の外部評価はありませんが、法人内の内部監査があり、業務改善に努めています。	第三者による外部評価を検討していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内の発達支援研究所の定期研修や、ブロック内での感染症対策研修などを受けています。	今後も積極的に研修を受けて、職員の資質向上に努めます。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援計画に則って、各指導員が適切に支援プログラムを作成しています。	支援プログラムの公表に向けて準備を進めています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントの際に、保護者に協力してもらうことで細かなニーズやその子の課題を共有できています。	これからも子どもの状況を把握するアセスメントをしていきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		指導員にもモニタリングに関わってもらい、それを個別支援計画の作成に生かしています。	支援に関わる職員の共通理解を大切にしながら、個別支援計画を作成していきます。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		各指導員は支援計画の内容を共有して、計画に沿った支援をしています。	今後も継続していきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		法人が定めたアセスメントシートを用いています。また支援記録にその日の気付きなどを記載して、それを共有しています。	記録やミーティングなどで、子どもの状況を把握できるようにしています。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域を踏まえた「本人支援」、本児と家族のより良い関係づくりをサポートする「家族支援」、関係機関等の連携や協力を明記した「移行支援」、それぞれに支援目標、支援内容を支援計画に明記しています。	引き続き、左記の内容を継続していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		1対1の個別療育なので、ミーティングで各指導員が、本児の現状を共有するようにしています。	ミーティングを大切にしていきます。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	担当制では無く、各指導員がその時の本児の状況を見て支援するため、固定化しないようになっています。	今後もプログラムが固定化しないようにしていきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	現状では個別療育が主となっています。	利用者様からの希望があれば、小集団療育に取り組んでいきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	支援開始前に場所や机などの確認を行うようにしています。	報告・連絡・相談の基本を忘れないようにしていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	ミーティングで支援の振り返りや、伝達事項の共有をしています。	様々な日々の気付きや、ヒヤリ・ハットの共有につなげています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	記録は欠かさずとっています。ミーティングで伝えきれない事項を記録に書き、情報共有や支援の検証につなげています。	記録を残すことを大切に、漏れが無いようにチェック体制をとり、日々の業務に当たります。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	指導員の協力を得て、6か月ごとにモニタリングを行っています。	今後も本児の発達を見ながら、定期的にモニタリングを行っていきます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児童発達支援管理責任者が参画しています。	サービス担当者会議には可能な限り、積極的に参加しています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	保護者の要望に応じて、関係機関と連携する体制を整えています。幼稚園や小学校との関係機関連携をしています。	今後も可能な限り、関係機関連携をしていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	個別療育で1対1での相手とのやり取りに少しずつ自信が持てるようにすることで、集団生活の中へ無理なく移行できるように支援をしています。	本児の自己肯定感を高めていくことを大事にしながら、支援をしていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	保護者から依頼された小学校へ提出する書類に、支援内容などの共有事項を書いています。	小学校や特別支援学校と、直接つながることができるようにしていきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	児童発達支援センターの相談員がモニタリング等で来所する際に、いろいろご意見をうかがうようになっています。	今後も児童発達支援センターとのつながりを大切にしていきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	1時間の個別療育のため、教室外へ出て地域のこどもと交流する機会がありません。	地域の他のこどもの活動は難しいかもしれませんが、方法を探っていきたいと思えます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	毎回支援後に15分の振り返りを行い、保護者との共通理解の場になっています。	家族支援も大切なので、これからは支援後の保護者との振り返りをしていきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	支援後の保護者との振り返りや事業所内相談などで、家族支援をしています。	これからは保護者の要望に応えられるように、家族支援に取り組んでいきます。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に重要事項説明書などを見ていただき、説明しています。	今後も丁寧な説明を心掛けていきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	契約時やモニタリングの時に、支援記録やアセスメントなどを元に作成した支援計画の内容を確認してもらっています。	こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を忘れないように、丁寧にご家族へ説明していきます。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援内容について説明をし、保護者の同意を得ています。	内容についてご意見があれば、内容の変更も踏まえて柔軟に対応して、同意を得るようにしていきます。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		支援後の振り返りや事業所内相談で、相談に適切に応じています。	保護者の要望に応えるよう努めていきます。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		個別療育が主のため、保護者会等は開催していませんが、保護者同士が歓談できる環境にはなっています。	保護者のニーズを確認しながら、保護者同士の連携を支援していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			相談・申し入れについては迅速に対応する体制を取っており、職員が事業所内相談等で対応します。	今後も子どもや保護者からの相談や申し入れについては、迅速かつ適切な対応をしていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			ホームページでのブログやX、LINEを使って情報発信をしています。	今後もネットを有効活用して、子どもや保護者に情報発信をしていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			契約時に同意書を交わしており、個人情報の取扱いには十分に注意しています。	今後も個人情報の取り扱いには細心の注意を払います。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			絵カードなどで視覚化する、事前にLINE等で連絡を入れるなど、個別対応をしています。	タブレット等も使用し、子どもの障害特性や意思疎通の難しい保護者の要望に応じて、個別対応をしていきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。		○		大家さんを通じて、地域とのつながりを作るようにしていますが、地域住民を招待するような行事は行っていません。	地域に当事業所の存在を認知してもらえるように努めていきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			緊急時の対応等について、保護者に契約時に説明しています。また定期的に訓練も行い、その報告を玄関に掲示しています。	職員は各マニュアルの内容を熟知して事業所の運営に当たります。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			感染症発生時を想定した訓練、非常時の連絡訓練などを実施しました。	今後も非常災害などを想定した訓練を行っていきたく思います。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			保護者からの情報をもとに、服薬やてんかん発作などのあるこどもについて、事業所内で共有しています。	発作が起きた場合の対処法なども、保護者から聞いて共有しています。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		食事の提供はありませんが、アレルギーのある児童の情報は把握しています。	アレルギーのある児童は、粘土の使用などに配慮していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			定期的にヘルメットなどの備品確認をしています。不審者を想定した訓練も行いました。	安全管理がされた環境で、楽しく支援が受けられるようにしていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			契約時に説明しており、安全計画を教室内に掲示しています。災害用伝言ダイヤルも掲示しています。	安全計画の取り組みについて、まだ周知されていない点があるので、今後も気を付けていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			事業所内スプレッドシート上に事例集を作成し、職員が加筆することや閲覧することができます。	今後もヒヤリ・ハットの記録を欠かさないようにしていき、事故やケガの防止に努めていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			年1回以上、虐待防止・身体拘束委員会を開き、事業所内研修をしています。	今後も職員研修の機会を確保していき、虐待の防止に努めます。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			契約時の重要事項説明書で、身体拘束について保護者に説明しています。	身体拘束の必要がある場合は必ずガイドラインに基づく三要件を確認して、記録や保護者の同意を得ます。必要に応じて支援計画にも記載します。	